

平成29年度 大阪府立交野支援学校 第2回学校協議会 報告

1. 日時・場所	平成29年12月18日（月）午前10時30分から12時30分・四條畷校会議室				
2. 出席者	【学校協議会委員】				
	高塚 良則		元大阪府立学校長		
	八尾 康典		交野自立センター所長		
	千原 義昭		交野市寺地区区長		
	田中 彰		四條畷市砂自治会長		
	森近 美子		大阪府立交野支援学校 PTA 会長		
	西田 由紀子		大阪府立交野支援学校四條畷校 PTA 会長		
	【事務局】				
	校 長		藤野 洋子	准校長	松尾 光雄
	事務部長		仲辻 昌造	四條畷校教頭	河上 鉄男
	本校教頭		室田 澄江	四條畷校首席・中学部主事	溝部 晃輔
	本校教頭※		丹羽 はるか	四條畷校首席・高等部主事	村上 智則
	本校首席※		相馬 寿子	* 公務のため欠席	
	本校指導教諭・小学部主事※		山田 恵子		
本校首席・中学部主事		大西 直子			
本校首席・高等部主事※		西島 洋美			
3. 次第	(1)校長挨拶（藤野校長） (2)「学校経営計画」進捗状況について（本校）（四條畷校） (3)「学校教育自己診断」について (4)「授業アンケート」について (5)その他（教科書選定報告等について） (6)意見交換 (7)准校長挨拶(松尾准校長)				
4. 報告	* ≪本校「学校経営計画」進捗状況≫ 【中期的目標】 1. 安全安心な学校づくり (1)「大災害時の対応マニュアル」の活用に向けての取り組み ・「対応マニュアル」をもとに、教職員対象の訓練を交野消防署とも連携し8月に実施。様々な助言をいただくとともに発電機の使用訓練等も行えた。 ・交野絆メールを利用したシミュレーションを実施。 (2)安全安心な医療的ケアの実施 ・国事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の指定を受けた。連携する医師の活用として、医師による巡回及び研修、泊行事における医師の同行（看護師研修）を実施した。次年度も本事業は継続予定。 ・人工呼吸器を使用している児童生徒の保護者付添い軽減の取り組みを行っている。 (3)人権に配慮した教育活動の推進 ・「アンガーマネジメント」について校内研修実施。 ・業務のスリム化を行い、児童生徒について情報共有できる時間の確保に努めている。 【中期的目標】 2. 専門性の向上・個々の教育的ニーズに応じた取り組み (1)特別支援教育の専門性向上と授業力向上及び授業改善 ・「根拠のある授業」をめざし、研究部等が中心となり、外部講師も活用しながら授業力向上にむけた取り組みを進めている。 ・授業のアーカイブ化として、学習指導案や教材を整理している。 (2)自立活動における専門性向上に向けた取り組み				

- ・外部人材を積極的に活用し、専門性向上のための取り組みや検証を行う。
- (3) 自立活動における新しい取り組みの充実
 - ・スパイダーやスノーズレン等を積極的に活用し、自立活動の指導を充実させる。
 - ・「個別の教育支援計画」を活用し、児童生徒の指導・支援の充実を図る。

【中期的目標】 3. キャリア教育の推進

- ・高等部選択性コース授業においては、外部講師を招いて授業を行うとともに、生徒が企画し、公共交通機関を利用して外出する取り組みを行った。
- ・地域の教育力の積極的活用について、今後は校区福祉委員会とも連携していきたい。

【中期的目標】 4. センターの機能の充実

- ・肢体不自由教育に焦点化し、公開研究授業・公開研修を開くとともに、来校相談を行っていく。

* < 四條畷校「学校経営計画」進捗状況 >

【中期的目標】 1. 生徒と生徒がつながり、保護者・地域諸機関とつながる学校

- (1) 進路教育及び政治的教養を育む教育
 - ・卒業後の進路について、高等部3年生徒については、ほぼ全員メドが立っている。
 - ・中学部についても系統だった進路学習が定着してきており、保護者満足度も上がってきている。
 - ・市の選挙管理委員会とも連携し、主権者教育に取り組んでいる。

【中期的目標】 2. 安全・安心な場を提供できる学校

- (1) 生徒のニーズに応じた生徒の健康支援
 - 継続的にニーズのある生徒に対して体重管理をサポートしている。
- (2) こころと身体の学習（性に関する指導）について、中学部・高等部を繋ぐ系統立てた学習となるよう内容を整理している。
- (3) 教職員向けの校内研修を7月に実施。人権研修は第2回目が12月に予定されている。
- (4) 「大災害時対応マニュアル」に沿った職員向けの訓練を実施（7月）。

【中期的目標】 3. 生徒のニーズに応じながら、豊かな学習を提供できる学校

- (1) 初任者および2年目教員についての研究授業はほぼ終了。アンケートでも肯定度が高く出てきている。
- (2) 大型テレビを2台導入し環境的には少し前進した。ICTについて校内研修実施。
- (3) 地域支援はコーディネーターを中心に、随時全ての依頼に応じている。センター的機能としては、今年度初めて地域の小学校の教員の授業見学依頼があり対応。
- (5) 「准校長室より」「学校情報」などHPの更新頻度をあげることで昨年よりも校内外に向け、情報発信に努めている。

* < 本校「学校教育自己診断」について >

- ・保護者アンケートでは昨年度より有意に好評価をいただいた部分として、「学校行事の工夫」「人権を尊重した指導」「教育方針の周知」。「いじめ」の項目は、府教委よりの指示での新設。課題点については、運営委員会をはじめ、各部会・学年会で検討していく。
- ・教員アンケートでは、各種取り組みがあり「大災害時の対応」について夏季休業中に避難訓練を実施したこともあり、職員の意識が高上した。「学校長のリーダーシップ」は高く評価されているが、「学校運営への職員の意見の反映」「校内人事」に対して低く評価が出ていることに対しては、今後分析が必要。

	*《<u>四條畷校「学校教育自己診断」について</u>》 ・集計はできているが、詳細な分析は未実施。次回協議会で報告させていただく。 ・「いじめ」に関する項目は本校と同様に新設だが、文言にも配慮して設定した。 *《<u>本校「授業アンケート」について</u>》 ・2回実施し、提出率はほぼ同程度。 ・今年度授業づくりに重点を置いてきたが、初任期の教員を支える体制がまだ不十分、 ・児童生徒の力を引き出す授業づくりについては、チームでの指導力の向上が課題と考えている。 *《<u>四條畷校「授業アンケート」について</u>》 ・概ね好評価で受け止められているが、アンケートの回収率が前年度より顕著に下がっているため、3学期の参観に向けて回収率向上対策が必要。 *《<u>教科書選定について</u>》 ・両校とも、絶版のものについて再選定を進めているところである。
5. 協議内容	<u>委員会からの意見等</u> 【大災害への対応について】 ・支援学校は府立学校となるので、災害時に備えて各市との連携が重要となる。 ・地区でも災害に備えた訓練をしているが、支援学校のことまではほとんど考慮できていないし、支援学校の内情（設備・備品・食糧等の備蓄）がわからない。地区としても知っておきたいし、今後は情報の共有や意見交換、地区の訓練への参加も必要になってくるであろう。 ・肢体不自由の子を持つ親としては、マニュアルがしっかりしていることもあり、学校にいる時間に災害が起きた場合のことは安心している。今後は、通学時の体制も引き続き整備してもらいたい。 ・大災害となると数週間避難生活が続く場合も想定される。そうなった場合のことも考え、日頃から地域や小学校等とも日頃から連携しておく必要がある。 【自己診断アンケート・授業アンケートについて】 ・情報の重要性を受け止めて、しっかり分析・活用して欲しい。 ・肯定的評価の数値ばかりに目が行きがちだが、否定的評価や「わからない」の数やその内容にも注目しそれを拾い上げることも必要である。具体的には「大災害時のマニュアルの周知」や「いじめ」の項目について、分析・対策が必要。 ・「キャリア教育」についても、きめ細かく取り組んでいる印象である。今後も継続して欲しい。また卒業後についても、学校内での進級と同じように、途切れない支援ができるように取り組んでいく必要がある。